

## 第3期おかやま創生総合戦略等の パブリック・コメント等での主な意見と県の考え方

### <第3期おかやま創生総合戦略素案>

#### 1 素案全般（3件／3人・団体）

	意見の要旨	県の考え方
1	<p>若者、特に女性の流出を止めたいのであれば、地元では、価値観や趣味が合う男性と出会う機会がほとんどないことや、若い世代が楽しめるイベントや文化的な活動がほとんどない現実を理解するべきだ。</p> <p>県は魅力的な男性と出会える環境や、若者向けのイベント、文化的な活動を充実させることが不可欠だ。また、都市での生活を通じて得た趣味やキャリアを地元で活かせるような仕組みを整えることで、帰郷の選択肢が初めて現実味を帯びるのではないか。</p>	<p>若者や女性の県外流出には大きな危機感を持っており、若い世代に選ばれる地域となるために、さまざまな観点から取り組む必要があります。</p> <p>本戦略では、基本目標1「①結婚の希望をかなえる環境づくり」に男女の出会いの機会の提供、基本目標3「③多様な人材の活躍推進」に女性の活躍推進、基本目標4「②地域社会の活性化」に文化とスポーツの力を活用した地域の活性化を掲げており、これらの相乗効果を高め、魅力ある岡山県を実現できるよう、ご意見の観点も踏まえ、施策を実行してまいります。</p>
2	<p>市町村は、国や県の総合戦略や人口ビジョンを勘案して戦略を策定する。地方創生を発展させていくために、国、県、市町村の役割をもっと明確に記載する必要がある。</p>	<p>県と市町村の役割については、補完性の原則から、住民に身近な行政サービスは市町村ができる限り総合的に担い、市町村が担うことができない広域的行政ニーズに関しては県が担うことが一般的であると考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、「第3 岡山県の目指す姿」の「2 県の役割」に追記します。</p>
3	<p>有効求人倍率はポジティブデータでもあるが、企業からすると人手不足で困っている表れでもある。データの見方は表裏あるので、一言で評価できないのが気になる。</p>	<p>有効求人倍率については、ご意見のとおり的一面もありますが、県内で働きたい方へのアピールポイントとなりうることから、ポジティブデータとして掲載します。</p>

## 2 「第4 おかやま創生を加速化・深化させるための対策」関係

(9件/9人・団体)

	意見の要旨	県の考え方
<b>基本目標1 「結婚・子育ての希望をかなえる」関係 (2件/2人・団体)</b>		
4	<b>【数値目標】</b> 出生数の数値目標12,238人とあるが、他の目標値を眺めれば、12,300人程度がよいのではないか。	この目標値については、過去の実績その他のデータを基に算出した数値としています。
5	<b>【1-④ ■出産・子育て後の女性の再就職等の支援】</b> 「子育て後」とあるが、子育て中においても可能な範囲で支援をしていく必要があるのではないか。また、生き方には様々な選択ができることが必要だと考える。「女性がさまざまな状況に応じて、働き続けることのできる環境づくり」を「女性が様々な状況に応じて、それぞれが選択する方向に進むことができる環境づくり」という表現に変更してはどうか。	ご意見のとおり、女性がさまざまな状況に応じて、それぞれが選択する方向に進むことができる環境づくりは重要であると考えています。この推進施策において、子育て期を含め、希望する女性が一人ひとりのライフスタイルに応じた働き方やキャリア形成を選択できるように支援してまいります。 なお、出産・子育て後とは、出産後から子育て後までの期間を指しており、子育て中の期間も含めています。
<b>基本目標2 「つながりを築き、人を呼び込む郷土岡山をつくる」関係 (2件/2人・団体)</b>		
6	<b>【2-② 若者の還流・定着】</b> 「県内大学新卒者の県内就職率」は46.6%でなく、空元気ではよいので50%が望ましい。	県内大学新卒者の県内就職率については、学生優位の「売り手市場」を背景に、都市部との賃金格差や若者の都会志向など、複雑な要因により低下傾向にあるところです。 本戦略では、このような傾向にあっても、現行戦略と同程度の伸び率を目標として設定したものです。

7	<p>人口流出が進む厳しい現実の中、危機感を戦略に反映できないのか。若い女性の流出防止をメインとするなど、流れを大きく動かす政策をすべきだ。</p>	<p>進学や就職を機とする若い世代の県外流出は喫緊の課題であり、特に、女性の県外流出には大きな危機感を持っています。</p> <p>本戦略では、基本目標3「③多様な人材の活躍推進」に、女性の活躍推進について記載していますが、他分野においても、女性をはじめ誰もが能力を十分に発揮して活躍いただけるよう、ご意見の観点も踏まえ、施策を実行してまいります。</p>
---	--	--

**基本目標3「持続的に発展できる経済力を確保する」関係（3件／3人・団体）**

8	<p><b>【3-② 産業の活性化】</b></p> <p>KPI「新規立地企業等の投資額」について、企業は何十万㎡という土地を求めているのに、岡山に土地がないのは根本的な問題だ。県主導の造成をKPIにはできないと思うが、政策に加えてほしい。</p>	<p>本県ではこれまで、産業用地の確保に向けた市町村への支援や民有地情報の提供に取り組んできたところであり、推進施策への記載までは考えていませんが、引き続き、企業ニーズに応じた産業用地の確保にしっかりと取り組んでまいります。</p>
9	<p><b>【3-② ■次代を担う力強い担い手の確保・育成】</b></p> <p>農業の担い手育成拠点は三徳園のみならず、岡山県農業大学校、一般財団法人中国四国酪農大学校もある。三徳園は農業経営・就農支援センターを有しているが、農作業体験や就農後の支援センターであり、新規就農者の育成には、岡山県農業大学校、中国四国酪農大学校も加えてほしい。</p> <p>また、農業次世代人材投資資金の免除条件に農業協同組合等での就職を認めてほしい。</p>	<p>新規就農者の確保・育成には、市町村や農業団体をはじめ、農業大学校や中国四国酪農大学校等も重要な拠点と認識しており、ご意見を踏まえ、「関係機関等と連携した」を追記します。なお、連携する関係機関については、個別計画である「おかやま農林水産プラン(仮称)」において、「農業関係高校や農業大学校、中国四国酪農大学校との連携」と具体的に記載することとしています。</p> <p>また、農業次世代人材投資資金は国の制度であり、県の判断による要件等の変更はできません。</p>
10	<p><b>【3-③ 多様な人材の活躍推進】</b></p>	

	<p>K P I 「勤務間インターバル制度に取り組んでいる企業の割合」について、ワークライフバランスの推進施策の関係と思うが、唐突である。</p>	<p>ご意見を踏まえ、推進施策「ア 働き方改革の推進」に、勤務間インターバル制度について記載します。</p>
<p><b>基本目標 4 「地域の活力を維持する」 関係 (2 件 / 2 人・団体)</b></p>		
11	<p><b>【 4 - ②地域社会の活性化】</b> 「文化芸術に関わった人の割合」について、岡山にはサッカーなどのプロチームがあるが、応援によって地域との関わりを強め、地域の誇りが生まれるので、ぜひ K P I に加えてほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本目標 4 「②地域社会の活性化」の K P I に、「県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を観戦した人の割合」を加えます。</p>
12	<p><b>【 4 - ③ ■防災施設整備や公共施設等の耐震化等の推進】</b> 「岡山県自身も災害に備えた備蓄をしている」という記載がないが、岡山桃太郎空港の倉庫で備蓄をしていることから記載してはどうか。</p>	<p>現在、市町村とともに南海トラフ地震の被害想定を基に、必要な備蓄を進めています。県備蓄は、「緊急物資等の備蓄・調達（南海トラフ地震想定）について」において、住民及び市町村の備蓄の補完と位置付けていることから、記載していません。</p>

＜岡山県人口ビジョン（令和7年3月改訂版）素案＞

1 「Ⅱ 人口の将来展望」（2件／2人・団体）

	意見の要旨	県の考え方
1	<p><b>【3 人口の将来展望】</b>            「国外移動を含む社会増減について令和10年以降均衡した状態が保たれる」は、県全体だが、岡山市や倉敷市と県北の市町村では人口の減少具合が大きく違うため、市町村別に人口の見通しを立ててほしい。</p>	<p>県内のすべての市町村において、地域の状況等を踏まえて、人口減少問題に焦点を当てた計画及び人口ビジョンを策定しているところです。県において、市町村別に推計を行うことは考えていませんが、市町村とともに人口減少問題に取り組んでまいります。</p>
2	<p><b>【3 人口の将来展望】</b>            「岡山県の人口の推移と長期的な見通しのグラフ」の凡例で、「日本の地域別将来推計人口」とあるが、県の将来推計人口のグラフであるのに、分かりにくい。単に「将来推計人口」とした方が良いのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「日本の地域別将来推計人口」を「現在の人口動態がこのまま続く場合」に修正します。</p>